



先祖代々のお墓
(本光寺境内地)

森町店
東京都日野市多摩平
安部様
東京から一度も
帰ることなく
東京の新しいお墓に
納骨できました



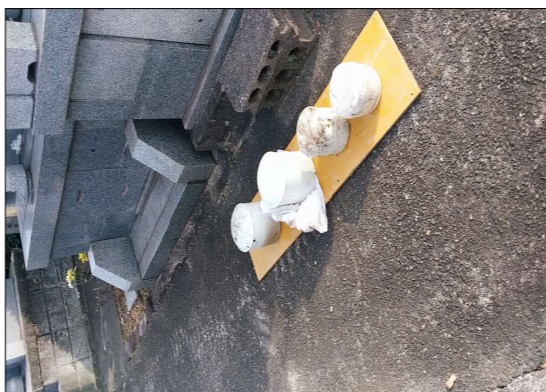
先祖墓の中の遺骨



閉眼供養



ご返却する為のお墓の跡地の整地



遺骨4体の清掃

私どもは数年前、こちら東京でお墓を求めておりました。いつかは(早めに)郷里の先祖の遺骨とお墓の整理をせなばと思っていました。ところが、最近、高齢のためか、長距離の移動がなかなか出来にくくなって来ました。大分に帰り、お寺様に離壇の話や、改葬証明など市役所の緒手続き、なにより、お墓を整理してくれる石材店探しなど3日も4日も掛かる旅行になりそうだったので、チョット自信を失くしてしまいました。その時、随分前に大分県人会で、郷里の墓をお世話する墓屋さんがあると聞いたことを思い出しました。早速、パソコンで探し、「さんわ」さんを見つけ、電話しました。電話で、分かりやすく、丁寧な説明をして頂き、すぐお願いしました。それから、私どもはお墓を買ったお寺様の遺骨受け入れ証明書を貰い大分の「さんわ」さんに郵送しただけで、あとは、市役所(改葬証明)、お寺様、墓石、墓所の整理とすべて「さんわ」さんが驚く

ほどスピーディーにやってくれました。写真を見て頂くと分かりますように供養の状況、お骨の状況、整理あとの様子などすべて写真を残していただきその様子が良く分かりました。また、お寺様との話、などたびたび良く連絡を頂き、安心でした。最後に実に料金も安くして頂きました。今回、奇跡のように思えてなりません。一度もお会いせず、電話だけなのにこれほどして頂いて感激しています。お陰様にて先日、納骨も無事終わり、家内共々、ホッとして居るところです。元氣でお仕事順調にいきますようお祈り致します。ありがとうございました。



お釈迦さまの足あと

初めての説法... サールナート
法を説くことへのためらい
菩提樹の下でさとりを開いたお釈迦さまは、その後7日間、足を組んだままの姿勢で「解脱の安楽」を味わわれたといわれます。お釈迦さまの心にあつたのは、自己の内に起こったきわめて特殊で微妙な体験を、言葉という誤解を生みやすい不完全な手だてによって他人に正確に伝えることへの不安であり、あるいは、たとえ言葉をもって正確に



サールナートのシンボルで、高さ43m、周囲36m。手前には、奉獻塔と呼ばれる小さなストゥーパ。

伝えられたとしても感得的な快楽の対象に夢中になっているばかりの世の人々にさとりの意味が果たして理解されるだろうかという疑問であったのでしよう。■初めての説法(初転法輪)、仏教の成立
説法を決意したお釈迦さまは、古来宗教上の聖地と見なされていたヴァーナラーシー(ベナレス)に向かいます。ブッダガヤーからヴァーナラーシーまでは直線距離



サールナート出土の初転法輪像
お釈迦さまの初めての説法を描写した傑作の仏像。5世紀頃の作と考えられている。足元には中央に法輪があり、それを囲んで右に三人、左に二人計五人の弟子がいる。

にして約200kmほど、街道を歩けば300km近くあるという距離です。この長い道のお釈迦さまは歩いてヴァーナラーシーに向かわれた。それはなぜかというところ、ヴァーナラーシーの郊外にあるサールナートというところに、5人の苦行時代の旧友がいたからだといいます。まず、かつて苦行をともし、そしてお釈迦さまが苦行を捨てた



サールナート出土の紀元前3世紀の頭部。

のをとがめた人の旧友に法を説こうと思われたのです。サールナートには「鹿野苑」(鹿野苑ろくやおん)と呼ばれる園があつて、そこに5人の修行者たちはいました。彼らに対して、お釈迦さまは「中道」のあり方などを説かれたと伝えられています。ですが、この最初の説法を、初めて法の車輪が回ったというところで、「初転法輪しようんぼうりん」といいます。5人の修行者たちはその説法に感銘し、お釈迦さまの弟子(仏弟子)になります。



ガンジス河の夜明け

このようにして、お釈迦さまが言葉によって法を人に伝えられたとき、宗教としての仏教が成立したことになります。サールナートは、インド最高の聖地として有名なヴァーナラーシー(ベナレス)から北西に10kmほどの静かな森の中にあります。サールナートは現在の地名で、仏典では鹿野苑(ろくやおん、サンスクリット・ムリガダーヤムリガダーヴァ、パリー・ミガダーヤ、「鹿の園 deer park」)の意)と記されています。

森町店

私も「さんわ」
建てました